

ハンディキャップは次世代のゴルフ環境を支える重要なツール

ワールドハンディキャップシステムの日本国内運用開始から今年で5年目を迎えた。来年からはモバイル・アプリを活用した新たな取り組みも始まり、ハンディキャップがより身近に、より使いやすくなる。これを機に、JGAではハンディキャップの普及をさらに進めていきたいと考えている。そもそもハンディキャップとはどういうものなのか、活用することでどんな効果があるのか。岡田光史JGAハンディキャップ委員会委員長が分かりやすく解説する。



ハンディキャップ制度の普及と次世代のゴルフ環境づくりへの展望を語る岡田光史委員長

HDCP制度が実現する公平な競技

——まず、ゴルフにおけるハンディキャップ（以下HDCP）の概念についてお話しいただけますか。

岡田 HDCP制度は、プレーヤー同士の優劣を決めるためではなく、異なる技量のゴルファーが公平に競技するための仕組みだと考えています。さまざまなスポーツの中でHDCP制度があるのはゴルフだけと言っていいでしょう。だからこそ、老若男女、初心者から上級者まであらゆるゴルファーが同じフィールドでプレーを楽しみ、競い合うことができるのだと思っています。

——HDCPは時代とともに進化してきたと思います。どのように変わってきたのか、現在のHDCP制度は

どのようなものかをお聞かせください。

岡田 近年に絞ってお話すると、2014年に新しいJGAHDCP規定が導入されました。従来の制度では互換性がなく、自分の持っているHDCPはどこでプレーしても変わりませんでしたが、新規定ではHDCPインデックスという数値を基準にその日にプレーするコース、ティーイングエリアに応じ、コースHDCPに換算して使用する形になりました。これでより公平にプレーできるようになり、HDCP競技では多くのプレーヤーが優勝を目指すチャンスが生まれたわけです。倶楽部競技にHDCPインデックスを採用したところでは参加者が増え、活性化につながったという事例がいくつもあります。ただ、当時は世界では異なる6つの

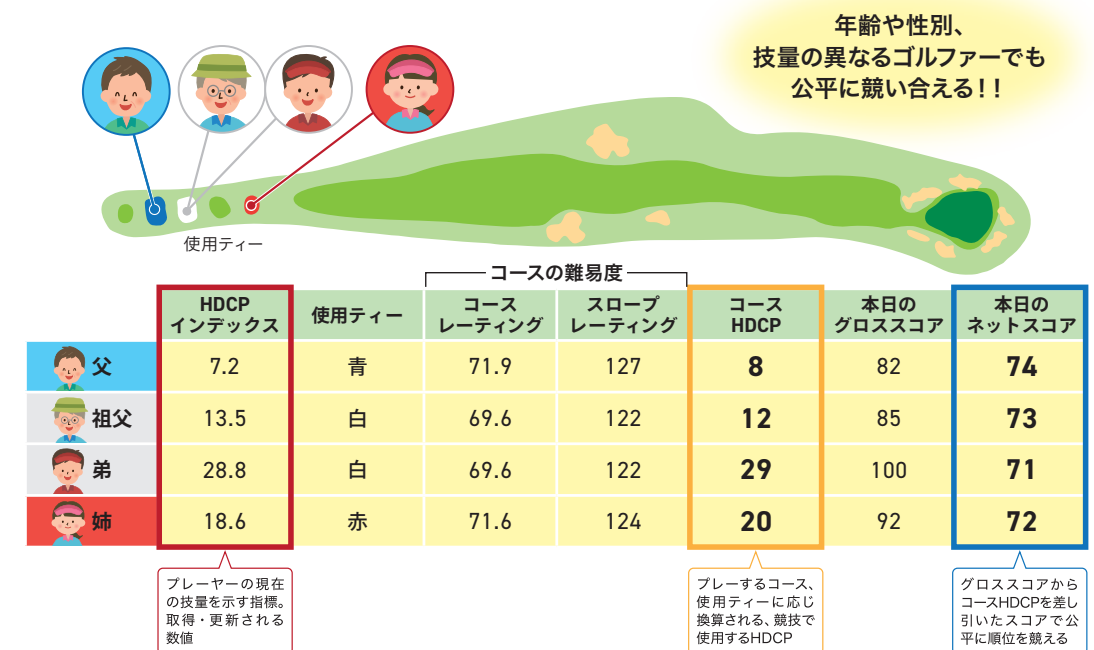


■ハンディキャップの歴史（概略）

年代	欧米	日本
17世紀後半	HDCPの概念が広まり始める	
1900年頃	英国女子連盟が初のCR開発	
1911年	USGAが初めてCR導入（全米アマ優勝者のスコア）	
1920年代～	全米各地区でHDCPシステムの改善策考案	1950年代JGA HDCP制度導入（USGA制度を参考に開発）
1960～70年代	USGAが障害難易度査定法を考案 現行HDCP制度の基礎完成	1978年旧JGA制度施行（USGA制度を参考に開発）
1979年	USGAがスロープシステム開発着手	
1987年	USGAがスロープシステム正式施行	
2010年		スロープ導入決定（USGAとJGAが正式契約締結）
2014年		スロープシステム施行（USGAハンディキャップシステム準拠）
2020年	R&AやUSGAなどが一致協力して開発した初めての世界共通ハンディキャップシステムであるワールドハンディキャップシステムがスタート	
2022年		4月からワールドハンディキャップシステムの国内運用を開始

CR=コースレーティング

ハンディキャップ活用例



HDCPシステムが運用されており、統一はされていませんでした。JGAが採用したのは米国などで運用されていたUSGAHDCPシステムに準拠したものでした。その後、R&AやUSGAなどが一致団結して研究を重ね、世界共通のワールドハンディキャップシステム（WHS）が開発されます。JGAHDCPと大きな違いはありませんでしたが、HDCPの新規取得のために必要なスコアカードが最低5枚（90ホール分）から3枚（54ホール分）に減り、HDCP算出に採用されるスコアカードの枚数が最新の20枚中ベスト10枚から20枚中ベスト8枚になるなどの変更点がありました。JGAでは2022年にWHSの運用を開始し、今年で5年目を迎えています。

——HDCPインデックスを持っていればそれを活用して世界中のプレーヤーと公平に競い合うことができるわけですね。

岡田 そうです。もともとHDCPはマッチプレーで戦うプレーヤー同士で生まれたものでした。それが、倶楽部の中で楽しめるHDCPになり、次は別の倶楽部とのコミュニケーションに活用され、それが地区へ、国へと広がっていきました。今ではWHSは国をまたぐ形になったわけです。ただ、日本ではまだ倶楽部のところで止まっているケースが目立ちます。倶楽部固有のHDCPでは倶楽部の中に限られますが、WHSを活用すれば日本中、世界中のプレーヤーと幅広い交流が可能です。

「JGAクラブハウス」モバイル・アプリの特徴

スコア入力画面の例

※アプリ画面は開発中のため、イメージ図



コース、ティーの選択



ホール毎にスコア入力



アテスト署名、提出

——HDCPインデックスと実際にプレーする時のコースHDCPとの違いについて理解を深めていただくために少し解説してもらえますか。

岡田 HDCPインデックスは「そのプレーヤーの現在のプレー能力を示す指標」です。過去に優れたプレーをしていたことや、以前の競技レベルを示すものではありません。過去の実力を反映するには、ルールに従ってプレーし、正しく記録したスコアをプレー後に提出することが重要です。HDCPインデックスは14.5など小数点第一位までの数字で表記されていますが、実際にプレーする時に換算して使用するコースHDCPは整数になります。日本でよく使われている新ベリア方式では小数点で成績を出すので、それが当たり前のように感じている方がいると思いますが、ゴルフの1打は整数であり、小数点がつくことはありません。たとえば0.5打勝ったとか負けたとかいうことは本来のゴルフではないと感じています。プレーする時は整数のHDCPを使用するというのをぜひ理解していただきたいと思います。

——スコアの提出は現在、パソコンで入力する形ですが、それが少し面倒だという声を聞いたことがあります。

岡田 現在、HDCPインデックスは「J-sys」というシステムで管理されていますが、来年4月にリニューアルして「JGAクラブハウス」という新システムを導入する

予定になっています。これはR&Aとニュージーランドゴルフ協会が共同出資（2026年7月2日付でR&Aの100%出資会社となったことが発表）しているDotGolf社が開発したシステムで、モバイル・アプリ機能も搭載されており、現在12カ国が採用している信頼性の高いシステムです。今の時代、スマートフォンによる情報取得が当たり前になり、競技のエントリーやスコア管理もデジタル化が進んでいます。こうした時代の変化に対応しながらWHSをより円滑に運用し、日本のゴルファーとゴルフ場双方に新たな価値を提供することを目指して採用するものです。さらには、コスト削減につながるという利点もあります。スコア入力はプレーしながらスマートフォンで行うことができますから随分と楽になります。それに、プレーする際のコースHDCPも自動で換算してくれるようになりますから利便性はかなり向上するはずです。

——現状では換算表を見てHDCPインデックスをコースHDCPに換算する必要がありましたが、それをアプリがやってくれる？

岡田 そうです。「JGAクラブハウス」は入力しやすく、使いやすく、見やすく進化したアプリ。スマートフォンで常に携帯できますから、どこにでも持ち運べるHDCPになるわけです。それに、将来的にはHDCPの管理だけでなく、競技情報やゴルフ場予約システムなど各種



ユーザーメリット

- 1 ホールバイホールを含むスコア履歴の確認
- 2 HDCP インデックスの確認
※従来どおり、倶楽部・団体での掲示も可能
- 3 HDCP インデックス証明書の取得
※従来どおり、倶楽部・団体による印刷・交付も可能
- 4 プレーするコース・使用ティーに応じたコースHDCPの自動算出

サービスとの連携などゴルファーが必要とする情報を集約するプラットフォームとして発展していくことを期待しています。言い換えれば「ゴルファーのための総合アプリ」。ゴルファーが日常的に利用し、競技参加や自己成長を支える入り口になることを目指しています。

——それは楽しみですね。

岡田 はい。ただ、「JGAクラブハウス」の導入はゴールではありません。本当に重要なのはより多くのゴルファーがHDCPを取得し、活用することです。HDCPはゴルフをより楽しく、より公平に、より多くの人が競技に参加できる環境をつくります。「JGAクラブハウス」はその価値をより多くのゴルファーへ届けるための新しい基盤となる。地区連盟や当協会加盟倶楽部を始め、日本パブリックゴルフ協会、都道府県ゴルフ競技団体の皆様には、是非多くのゴルファーにHDCP制度の価値を伝え、スコア提出とHDCP取得を積極的に推進していただきたいと思います。

——「J-sys」から「JGAクラブハウス」に切り替わる時に倶楽部側が何か作業をすべきことはありますか。

岡田 基本的には「J-sys」のデータがそのまま移行されますので、自動的に同じ情報となります。今、最終段階に入っていますので、出来上がりましたらその紹介をして、実際にどのように動かすのかを倶楽部の皆様に見ていただく形になります。

HDCPの普及に向けた取り組み

——HDCPの普及を推し進めるため、「JGAクラブハウス」の導入のほかに考えていることはありますか。

岡田 HDCPを持つだけでなく、実際に使う場所が多様化してこないと普及やさらなる発展にはつながらないと考えています。現在、JGAではHDCP競技を構築し、HDCPを使用できる場所を増やすための準備を行っています。これらの競技も「JGAクラブハウス」で公開されますし、そこから申し込める形になります。

——JGA以外にも国内の団体などでHDCP競技が行われていますが、現状はどのような感じでしょうか。

岡田 地区連盟、都道府県連盟や日本パブリックゴルフ協会などでもさまざまなHDCP競技を実施いただいていますし、大学でも最近、HDCP競技が始まりました。関東ゴルフ連盟では来年にもジュニアのHDCP競技を開催する予定だと聞いています。ジュニアは現状、スクラッチ競技のみ。勝ち上がっていきける上位の選手はたくさん試合がありますが、予選で終わってしまう選手はどうしても試合の機会が少なくなってしまう。しかし、HDCPを活用すれば、多くのジュニアに活躍できる機会が与えられる。たとえば、HDCPインデックスの数値によっていくつかのディビジョンに分け、ディビジョンごとにスクラッチの競技をすることも考えられます。ジュニアや大学生時代からHDCPに親しんでもらえれば、社会人になってからもHDCPを持ってゴルフを続けていききっかけになる。HDCPの普及を進めていくにはジュニア時代に取得してもらうことが重要な点だと思っています。

——最後に、岡田委員長から伝えたいメッセージがあればお話しください。

岡田 ゴルフ場や各団体の方々には多くのゴルファーがHDCPを通じてさまざまなイベントや競技に参加できるよう活用していただきたいですし、ゴルファー個人にはスコアを提出することで自分の現在の実力値を理解し、それをもとにゴルフを楽しんでいただきたいと思っています。HDCPは次世代のゴルフ環境を支える重要なツール。JGAはこれからも、世界基準に基づく公平なHDCP制度の普及と、次世代のゴルフ環境づくりに取り組んでまいります。